

スリランカ 国道主要橋梁 建設事業PAC2

株式会社安藤・間 国際事業本部 土木部 スリランカ北部橋梁作業所

廣田龍司

Ryuji Hirota



世界で活躍する
日本の建設企業



作業風景 (B13) ①



作業風景 (B13) ②



安全運転講習会

スリランカ国の紹介

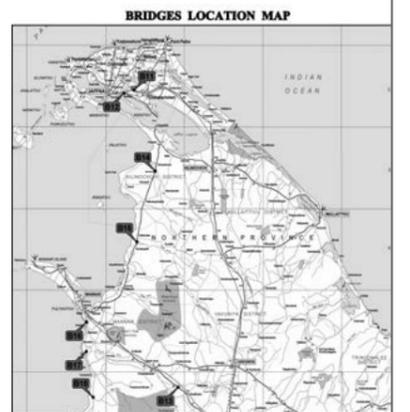
インド南東部の島国であるスリランカ。セイロン島とも呼ばれており、セイロン茶（ティー）と言えば泣く子も笑うと言われるほど、スリランカ産の紅茶は非常に有名である。

国土の広さは北海道より一回り小さい。七つの世界遺産があり、サファリパークも点在する。島国だけあって魚介類が豊富だが、食の目玉は何と言ってもスリランカカレーだろう。奥深い辛さにと病みつきになる。夕刻、インド洋に沈む夕日は寂しげで美しい。現地の人ですら足を止めて見入っているのだ。そんな折、カレーの夕餉がほかに香ると皆思い出したように歩き出す。「花より団子」は世界共通らしい。スリランカは一九八三年から二六年にわたり内戦を経験した。終戦後、国際社会の協力もあり急速に発展してきた。元来勤勉な国民性なのだろうと考えていた時、彼らの合言葉を教えてもらった。

プロジェクトの紹介

当プロジェクトは、スリランカ民主社会主義

「オッコマ、ハレハレ！」（ALL、OK!）。むしろラテン系なのだろうか。カレーと同じで、国人も非常に奥深い！



八橋の位置図 (B11~B18*)

共和国スリランカ道路開発庁を発注者とする全国主要幹線道路ネットワークの整備を目的とした全国規模の橋梁（全三七橋）架け替えプロジェクトのうち、パッケージ二に該当する。当該パッケージでは、スリランカ最大の都市コロンボから車で八時間の距離に位置する北部州のジャナナ市及びマナー市近郊にある八橋の架け替え工事を請け負う。

工事概要

全八橋のうち、直接基礎及びPCプレテン橋が七橋、場所打杭及びPCプレテン橋が一橋である。着工は二〇一六年十一月で、二〇一八年八月の竣工を目指している。当プロジェクトでは、南北一六〇kmの範囲に渡り現場が分散しており、全サイトの施工時期も重なるため、きめ細かな安全・品質管理が求められる。発注者が要求するグレードは高い。日本のコントラクター

ーとして、その期待に全力で応えるべく、今日まで培ってきた技術力と、世界規模の人員ネットワークを結集し、施工・運営にあたっている。特に安全・品質面については、単なる注意喚起や作業に留まらないよう心掛けている。現地作業員に対しては、安全行動について繰り返し指導することで根本的な意識改革を目指し、品質については作業の効率化も含め、現地への技術の伝承を目標に関係者と一致団結して取り組んでいる。

終わりに

現場のある北部州は、かつて内戦が行われていた地域である。スタッフが全土から当プロジェクトのために集まり、当時は敵・味方に分かれていた民族が力を合わせて一緒に施工している。勤勉だけでなく、非常に前向きな人々たちなのだと思う。彼らの情熱を前に、当プロジェクトに参加出来ることを改めて誇りに感じ、発注者の要望にしっかりと応えたいと使命感を新たにす。

最後に、スリランカでは日本に興味を持つ人が意外と多く、スタッフから日本の伝統文化について訊かれることもままある。ささやかな文化交流だが、両国をつなぐ小さな架け橋のひとつになればと思う。